

「組織的」FD活動の取り組みに向けて

基礎教育センター長・FD委員会委員長

上野 淳

開学以来、暗中模索の中で歩んできた本学のFD活動も4年目を迎え、一定程度の前進ができたとの感慨を持つに至った。歴代のFD委員会委員各位、及びこれと常に連携をいただいていた教務委員会・基礎教育部会委員各位のご理解とご協力の賜と心より感謝している。

例えば全学共通科目（基礎ゼミナール・都市教養プログラム・実践英語・情報リテラシー実践・理工系共通基礎科目）におけるSE・TEは各年前期・後期においてほぼ悉皆的に実施されており、学生による授業評価の結果が授業担当者にフィードバックされる態勢は定常的に整ってきた。又、厳格な成績管理を含めた「単位の実質化」が重要課題であることは論を待たないが、都市教養プログラム、基礎ゼミ、情報教育の各部会で成績評価に関するガイドラインの策定が実現し（元々、実践英語では全学統一テストによる厳格な成績評価が既に行われている）、全学合意の元にこの指針の下での成績評価も歩みはじめた。



さて、FD活動の基本的目標は、いうまでもなく「授業改善」にある。個別の授業のSEの集計結果が授業担当者に返され、それぞれの授業改善に役立てていただいていることになるが、教育プログラム毎に全体として授業改善が真の意味で進んでいるかを検証し、共有することが重要になってくる。また、成績評価指針にしても、これによって各教育プログラム・各授業科目において適正な成績評価が実現しているかについても、当然何らかの方法で検証が必要である。このためには、教育プログラム全体に対し、又は必要な場合には個々の授業科目に対し、教育組織全体として課題を発見するための取り組みが今後は必要になってこよう。もともと我々教員には大学の授業は授業担当者の責任において行われる不可侵のものとの意識が強かったといえるが、このことのみを重んじては組織的な改善をめざす大学の方向性と矛盾をきたす恐れが生じることとなる。本学の特質を見極めながら、組織的なFDにはどのような可能性があるか、今後の課題としたい。

先号でも末尾に記したが、「未だ道半ば」と思う。